

図書館トピックス

【読書週間イベント①「カルトナーージュ」に挑戦】

10月31日にくにさき図書館で「大人の工作教室」を行い、初めてのイベントに13名が参加しました。牛乳パックを利用して、その上からカラフルな布地を張り付けるカルトナーージュ。彩りも良く、大人可愛い作品がたくさん完成しました。



【読書週間イベント②「秋空の下でおはなし会」を開催】

秋空の下、11月6日と7日におはなし会を4館で開催。読み聞かせや紙芝居のほか、ロケットとばし、リズム遊び、工作など、普段と違った開放的なイベントとなりました。たくさん子どもたち楽しんでもらえました。

【読書週間イベント③「大人の作品展」を開催】

「図書館の本を参考に作ってみよう！」をテーマに、6名が参加しました。手編みのバッグ、ベビー服、ベビー用ターバン、折り紙飾り、絵画など、作品はどれも力作ぞろい。来館者からも感嘆の声があがっていました。

司書のイチオシ

『ライオンのおやつ』

小川 糸ノボラ社

若くして余命宣告を受けた海野雫。終の棲家として選んだのは、瀬戸内海に浮かぶ島のホスピス「ライオンの家」。穏やかに流れる時間の中で、そこに住むちょっと風変わりな住人たちとの交流を通して、過去と向き合いながら静かに最期の時を待ちます。



2020年の本屋大賞第2位の作品(小説)です。NHKでドラマ化もされました。ぜひ読んでみてください。

国見図書館 司書 宮永 晃子

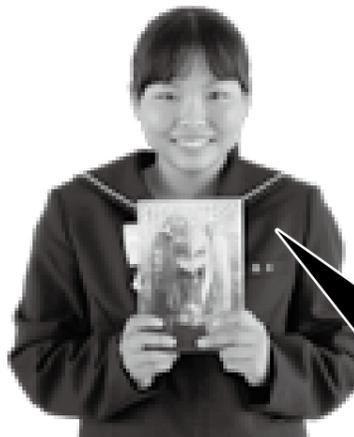
中学生のイチオシ

これい おり

『狐霊の檻』

廣嶋 玲子/小峰書店

かつて家を救ってくれた狐霊をとらえ、権力と富をほしいままにする阿蒙家。狐霊の「あぐりこ」を助けようと、あぐりこのお世話役・千代が阿蒙家に立ち向かう「和風ファンタジー」です。誰もが引かれる世界観と美しい描写が魅力の一冊です。



読書が好きで、学校の図書館によく行きます。将来の夢は、本で知った「臨床心理士」。心の悩みを聞いてあげることで、人の役に立ちたいです。

このん 国東中学校 1年生 藤本 心音 さん

【問合せ先】 国見図書館 ☎ 82-1585 武蔵図書館 ☎ 69-0946
くにさき図書館 ☎ 72-3500 安岐図書館 ☎ 67-3551



図書館

イベントカレンダー

12/9 木

あかちゃんおはなし会

午前11時 くにさき図書館

12/11 土

おはなし会

午前11時 市内全館

休館情報

12/28(火)

資料整理日のため休館
市内全館

12/29(水)~1/3(月)

年末年始休館日
市内全館

毎月月曜日は図書館休館日です

~ちょこっと情報~

★読書週間の来館者数
2,209名(10/27~11/9)

★ブックリサイクル利用冊数
2,317冊

シリーズ「部落差別の問題⑳」

~「人権ゆかりの地」をたずねて~

■モニュメントとは(「後世に残したい」思い)

特定の人や事件、偉業などを記念して建てられた記念碑や建築物、遺跡などは「モニュメント」と呼ばれ、記憶に残すために形あるものとして残されてきたものです。つまり、モニュメントはその時代の人々が大切にしてきたものが、形として今に伝えられているということです。

■「人権文化の息づくまち」の取り組み(「人権に関するモニュメント」)

近年、自分たちの地域づくりがいかに進められてきたかを見直し、暮らしの中に根づいている人権尊重の取り組みをさらに進めるために、人権に関するモニュメントを紹介する「人権ゆかりの地」や「人権マップ」、「人権スポット」などのパンフレットを作成する自治体が増えています。京都では、京都府が府内の72か所、京都市が市内の23か所の人権にゆかりの場所や事柄などについて、概要や写真などを紹介しています。特に、京都市は市民だけでなく観光客にも改めて「人権」について考えるために、日本語版・英語版・中国語版・ハングル版の4か国語版を作成するなど、『人権文化の息づくまち・京都』を実現するために、さまざまな取り組みを行っています。

■「全国水平社創立の地」をたずねて(「人権ゆかりの地」を実感)

ところで、私は、今から13年前、京都市「人権ゆかりの地マップ」の8番で紹介されている『全国水平社創立の地』を訪れました。2枚の石板を平行に立てた形の個性的な記念碑が、京都市美術館別館の玄関横に建てられていました。この碑は、1922(大正11)年3月3日、部落差別に苦しむ被差別部落の代表約3,000人が京都に集まり、日本最初の人権宣言と言われる「水平社宣言」を採択した全国水平社創立大会の開催場所を示したもので、水平社創立60周年を記念して1982(昭和57)年に建てられました。

■創立大会での少年の訴え(16歳「山田孝野次郎」の演説)

この創立大会では、大人だけでなく当時16歳の山田少年も演説を行い、自分の差別体験を声をつまらせ涙ながらに語りました。そして、演説の最後に、「今、私たちは泣いている時ではありません。大人も子どもも一斉に立ち上がって、差別を打ち破りましょう。光り輝く新しい世の中にしましょう」と力強く呼びかけ、会場は大きな拍手に包まれました。

■全国水平社創立100周年(「部落差別のない社会」をめざして)

来年、2022(令和4)年は『全国水平社創立100周年』の記念の年です。国東市では、関係する書籍や視聴覚資料などを隣保館や各図書館に備えています。一冊手に取り、多くの団体が協力してユネスコ世界記憶遺産への登録を目指している水平社宣言や山田少年の演説などに触れ、改めて部落差別の問題について考えてみませんか。

(文責:武蔵分室 伊藤 尊和)

お互いの「できる」を尊重し合う社会へ —第4回 身になる人権講座 より—

11月17日(水)に、日出町のソニー・太陽(株)から2名の講師をお招きして、「障がい者と人権」をテーマに「身になる人権講座」を実施しました。障がい者と健常者がそれぞれの「できる」を生かしながら活躍している同社の取り組みや、すべての大人がお互いの「できる」を尊重する雰囲気をつくり上げることで、子どもたちが未来に夢や希望が持てる社会が創造されることなどをご講演いただきました。

今年度最後となる次回の講座は、2月14日(月)にアストくにさきで開催予定です。「性的マイノリティー」をテーマに講演会を実施しますので、ぜひお越しください。

【問合せ先】 社会教育課 人権教育・部落差別解消推進係 ☎ 72-2121

